

1. 件名：東京電力福島第一原子力発電所の事故分析に関する面談
2. 日時：令和3年6月2日（水）10時00分～11時45分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

岩永企画調査官、星主任技術研究調査官、佐藤（匡）室長補佐、佐藤（雄）  
管理官補佐、（以下、テレビ会議システムによる参加）近藤技術参与、鈴木  
技術参与、林技術参与、平山技術参与、吉田技術参与

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー プール燃料取り出しプログラム部

担当者 3名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー 廃棄物対策プログラム部

担当者 1名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー 防災・放射線センター

担当者 1名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー プロジェクトマネジメント室

担当者 2名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、福島第一原子力発電所2号機のシールドプラグコア抜きに向けた検討状況について、主に以下の点に関して説明があった。

- コア抜きの箇所は、オペフロ除染作業の支障にならないような箇所を考えている。
- コア抜きにより生じる穴は、何らかの方法で閉止する予定である。
- シールドプラグの2層目の途中までコア抜きを行う場合、モックアップ試験等を行う必要が生じるため、1層目までのコア抜きよりも作業期間が延びることが想定される。

○これに対して、原子力規制庁は、以下の点を伝達した。

- コア抜きについて、シールドプラグ1層目までを行うことを基本とし、2層目まで行う箇所は最小限に留めること。
- オペフロ除染作業中に用いる水によるコア抜き箇所への影響を最小限に抑えるための方策をとること。
- コア抜きにより生じる穴は、抜いたコアを戻す方法などにより閉止すること。

6. 資料

- 2号機シールドプラグコア抜きに向けた検討状況について

以上